

## 社会情勢の変化等に対応する課題検討シート

協議事項名

スポーツの推進について

部局名

スポーツ推進局

## 1. 現状

## 1) 国の動き・社会経済情勢の変化

平成30年の全国高等学校総合体育大会の本県を中心とした東海4県での開催、平成32年の東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催、平成33年の国民体育大会・全国障害者スポーツ大会の本県開催が予定され、今後、県民のスポーツへの関心がますます高まるものと考えられます。

国においても、「経済財政運営と改革の基本方針2014」(平成26年6月24日閣議決定)で、スポーツ立国を目指し、国際競技力の向上、生涯スポーツ社会の実現、スポーツによる健康づくり等を推進するとともに、スポーツ庁の設置検討を行うとされています。こうした中、国際競技力の向上に向けて、女性アスリートの育成・支援の取組が展開されています。あわせて、国民体育大会に新たに女性競技(種目・種別)の追加が予定されています。

こうした社会情勢の変化を最大限に生かして、スポーツによる元気な三重づくりにつなげていくため、取組を推進していく必要があります。

## 2) 三重県の現状

本県アスリートの活躍は、県民に夢と感動をもたらし、スポーツに対する関心をさらに高めることに繋がりますが、本県の競技スポーツの水準は、昨年の国民体育大会の男女総合成績の順位が41位と低位な状況にあります。

こういった中、本年度新たに「中学校運動部強化指定事業」や「スポーツ指導員配置事業」、「特別コーチ派遣事業」に着手するとともに、「高等学校運動部強化指定事業」の拡充等の取組を進めているところです。

このような取組により、本年度の全国高等学校総合体育大会において、三重高等学校女子ソフトテニス部や県立四日市工業高等学校男子テニス部が団体優勝するなど、一定の成果がみられています。

今後は、さらに取組を加速していく必要があります。

## 【関連数値データ】

データ名 国民体育大会の男女総合成績の推移(過去5年間)					
	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
順位	44位	32位	32位	38位	41位
得点	691.0点	816.5点	858.5点	792.5点	745.0点

データ名 全国大会の入賞件数の推移						
	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
国民体育大会	50	47	62	49	51	
全国高等学校総合体育大会	28	31	29	36	34	50
全国中学校体育大会	11	13	10	11	17	11
合計	89	91	101	96	102	

(平成26年8月31日現在)

## 2. 課題

本県の競技力を向上させていく上で、「ジュニア選手及び少年選手の強化」や「成年選手の育成・強化」、「指導者の養成・確保」、「競技力向上のための環境整備」、「競技スポーツを支えるしくみづくり」など様々な課題があります。また、平成33年の国民体育大会開催に向けて、準備を加速していく必要があります。

これらの課題の中で、特に、下記の項目については、平成33年の国民体育大会での天皇杯・皇后杯獲得、さらには大会後の好循環をつくっていくために、来年度から早急に取り組む必要があります。

〔早急に取り組まなければならない課題〕

### (1) ジュニア選手及び少年選手の育成・強化について

- ・ 目前に控えた平成30年度全国高等学校総合体育大会に向けたジュニア選手及び少年選手の育成・強化が充分図られていない状況がある。

### (2) 成年選手の県内定着について

- ・ 本県出身等のトップアスリートが本県に定着できていない状況がある。
- ・ 成年選手が活動するチーム数が少ない状況がある。

### (3) 指導者の確保について

- ・ 少年選手や成年選手の育成・強化に必要な優秀な指導者が少ない状況がある。

### (4) 女性アスリートのサポートについて

- ・ 女性アスリートの新たな国体競技（種目・種別）への対策と、結婚・出産・子育てなど女性アスリートが競技を継続できる環境が整っていない状況がある。

### (5) 国体準備基金の確保について

- ・ 国体開催準備に必要な運営経費が充分でない状況がある。

## 3. 対応策

三重県競技力向上対策本部を中心に、公益財団法人三重県体育協会や関係団体等と連携し、平成26年度を取組を継続するとともに、早急に取り組むべき課題に対応するため、平成27年度は以下について、新たな取組に着手するとともに、これまでの取組を拡充していきます。

〔取組事項〕

### (1) ジュニア選手及び少年選手の育成・強化の取組

- ・ (拡充) 中学校・高等学校運動部強化指定事業の拡充を図ります。
- ・ (一部新) 国内トップレベルの指導力をもつ指導者を指定し学校運動部活動をサポートするとともに、中高の連携を図りながら、競技種目別の育成・強化の取組に着手します。

### (2) 成年選手の育成・強化の取組

- ・ (新) 本県にトップアスリートが定着できるような就職支援の取組に着手するとともに、新たなチーム結成に向けた取組を進めていきます。

### (3) 指導者の養成・確保の取組

- ・ (拡充) 「特別コーチ派遣事業」や「スポーツ指導員配置事業」など、県内外の優秀な指導者の派遣・登用を進めていきます。

(4) 女性アスリート・サポート体制充実の取組

- ・(新) 新たな国体競技(種目・種別)への対応と、女性アスリートが継続して競技を続けられるようなサポート体制づくりに取り組みます。

(5) 国体準備基金の確保の取組

- ・(拡充) 平成33年の国民体育大会開催に向けて、計画的な運営経費の積み立てに取り組んでいきます。

※このような取組を推進していくため、新たな「職」の設置も含め、推進体制の強化に向けた検討が必要。



# 平成27年度スポーツの推進について

## 国の動き・社会経済情勢の変化

- ・平成30年の全国高等学校総合体育大会の開催
- ・平成32年の東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催
- ・平成33年の国民体育大会・全国障害者スポーツ大会の開催
- ・国の「女性アスリート育成・支援プロジェクト」の展開

## 県の取組

『スポーツによる元気な三重づくり!』

## 早急に取り組む課題

- 1 ジュニア・少年選手の育成・強化
  - ・平成30年度全国高等学校総合体育大会に向けた育成・強化が充分図られていない。
- 2 成年選手の県内定着
  - ・トップアスリートが本県に定着できていない。
  - ・チーム数が少ない。
- 3 指導者の確保
  - ・優秀な指導者が少ない。
- 4 女性アスリートへのサポート
  - ・平成28年国体以降の正式競技（種目・種別）への対応が図られていない。
  - ・女子の競技力が低い。（運動習慣の二極化）
  - ・結婚・出産・子育ての環境の中でスポーツから離れてしまう。
  - ・女性特有の身体的特徴における研究が開発の途上にある。
- 5 国体準備基金の確保
  - ・国体開催準備に必要な運営経費が充分でない。

## 対応策

- 1 ジュニア・少年選手の育成・強化の取組  
（拡充） 中学校・高等学校運動部強化指定事業の拡充  
（新） 学校運動部スーパーアドバイザーガイドライン派遺事業の実施
- 2 成年選手の育成・強化の取組  
（新） トップアスリート就職支援事業の実施
- 3 指導者の確保  
（拡充） 特別コーチ派遣事業  
スポーツ指導員配置事業の拡充
- 4 女性アスリートへのサポート  
（新） 女性アスリートサポート事業の実施
- 5 国体準備基金の確保  
（拡充） 運営経費の計画的な積み立てを実施  
（平成33年目標：60億円）

# 競技力向上対策 重点事業

## 三重県競技力向上対策本部

### 1 ジュニア・少年選手の育成・強化の取組

(新) 学校運動部スーパーアドバイザー派遣の実施  
国内トップレベルの指導力をもつ指導者を指定し学校運動部活動をサポート

(拡充) 中学校・高等学校運動部強化指定事業の拡充

取組概要

### 2 成年選手の育成・強化の取組

(新) トップアスリート就職支援事業の実施  
トップアスリートが県内に定着できるように就職支援と新たなチーム結成に向けた取組

### 3 女性アスリートサポート体制の取組

(新) 女性アスリートサポート事業  
新たな国体競技(種目・種別)への対応  
女性アスリートが継続して取り組める環境づくり

### 4 指導者の養成・確保の取組

(拡充)  
特別コーチ派遣、スポーツ指導員配置事業の拡充

(取組内容)  
・国内トップレベルの学校運動部指導者による指導  
・中高連携による学校運動部競技種目別の育成・強化(期待される効果)  
・選手の競技力向上  
・指導者の資質向上  
・インターハイ入賞件数の増

対応策概要

(推進体制)  
競技力向上専門職員の配置

(取組内容)

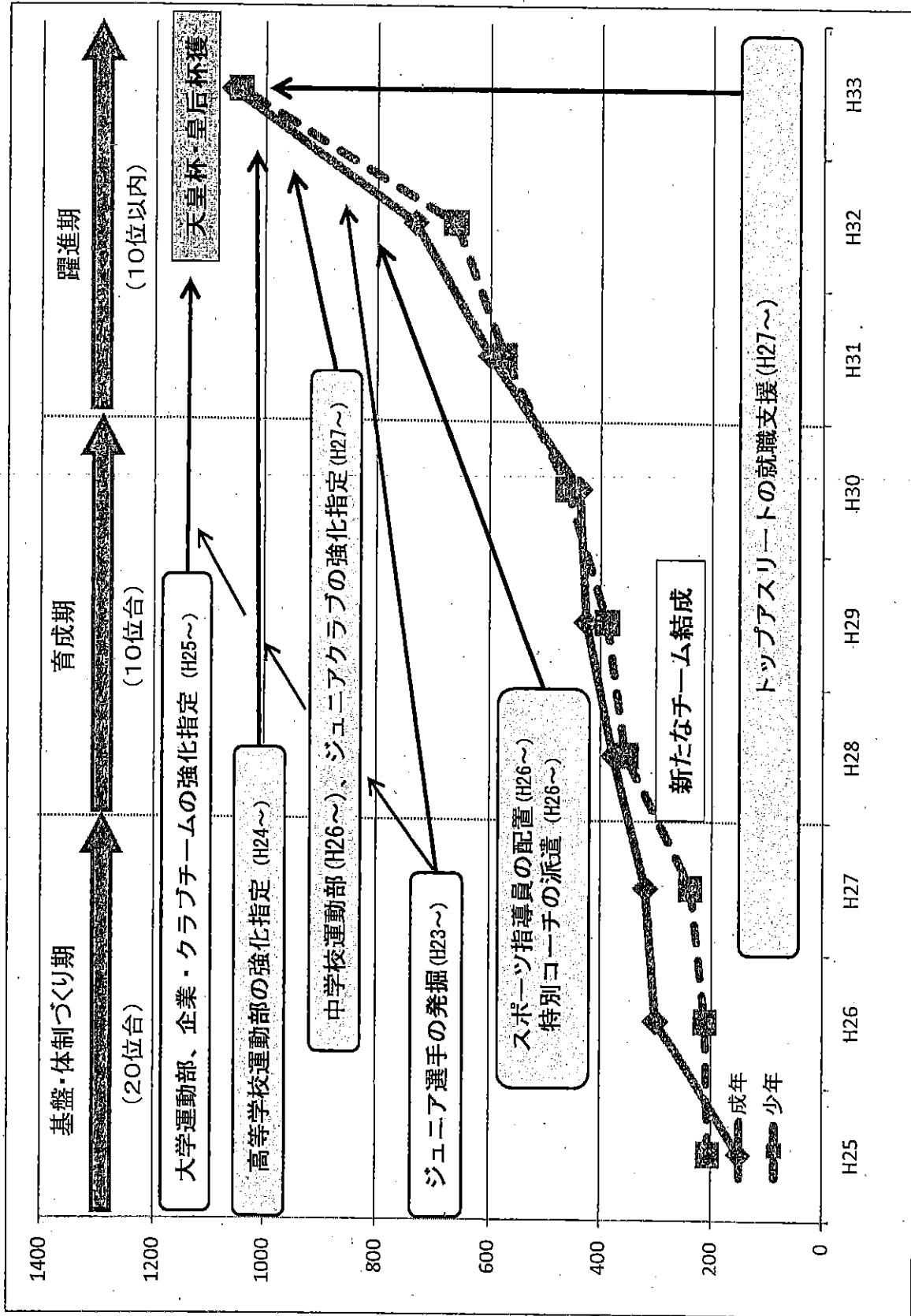
- ・雇用の確保
- ・国内トップレベルの選手を勧誘
- ・新たなチーム結成
- ・女性アスリート協議会(仮称)の開催
- ・大学や医療機関と連携した女性に対する医学サポートの研究
- ・新たな国体競技(種目・種別)への対応

競技団体

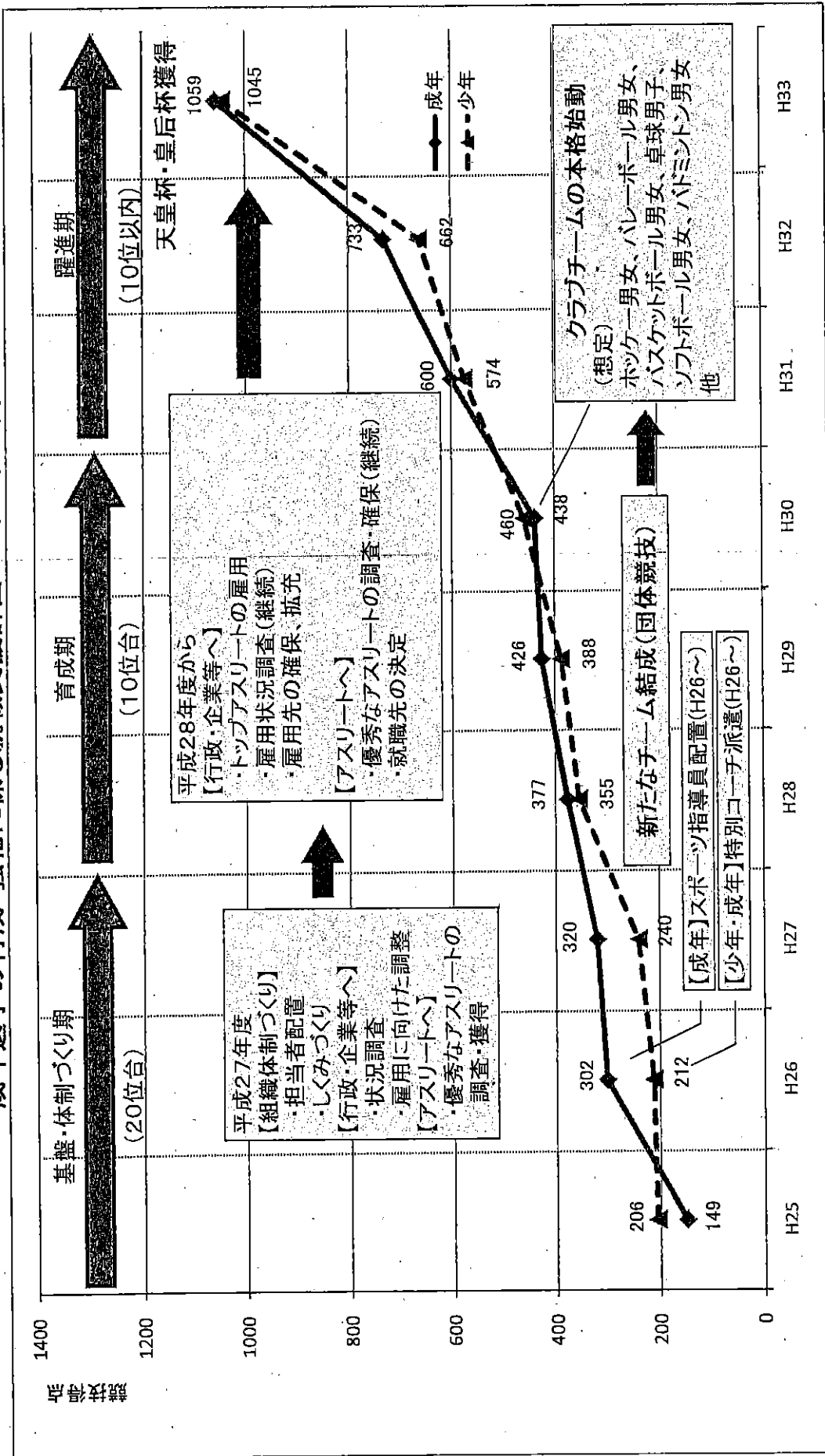
連携

調整

# 競技力向上対策 ロードマップ



# 成年選手の育成・強化に係る就職支援計画画ロードマップ(案)





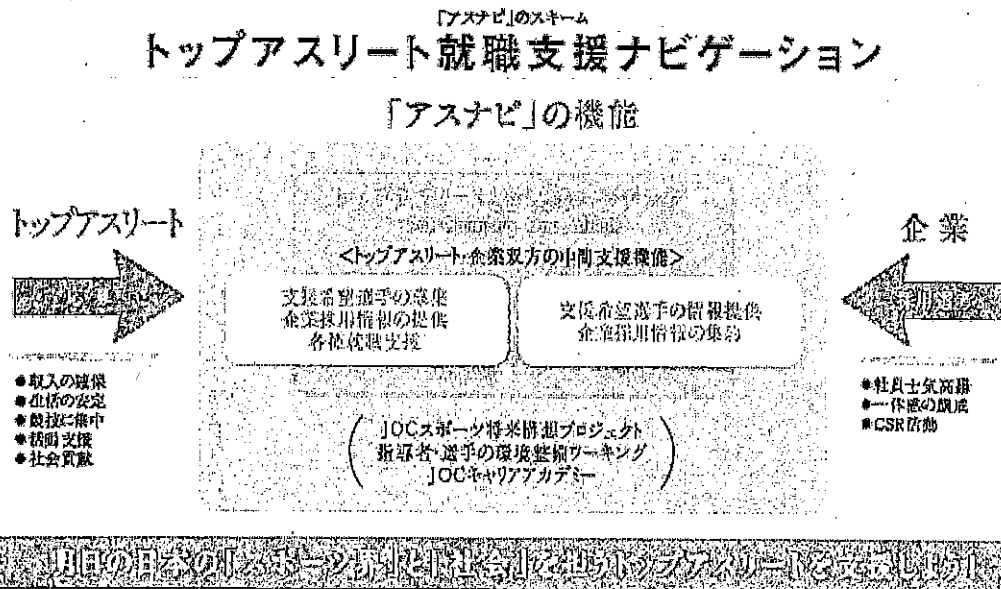
## 国のトップアスリート就職支援に関する取組

### 1 事業名：トップアスリート就職支援ナビゲーション（アスナビ）

### 2 基本理念及び目標

「アスナビ」は、JOCゴールドプラン委員会スポーツ将来構想プロジェクトが推進する「世界を目指すトップアスリートの生活環境を安定させ、競技を安心して続けられる環境を作るために、企業のサポートを望むトップアスリートと雇用側である企業とのWin-Winの関係を作る」ことを目的とした活動です。

具体的には、「企業側が知らないトップアスリートの実情」と「アスリートが知らない企業の実情」といった双方のコミュニケーションを通じて、相互理解を図り、両者にとって有益なマッチング（トップアスリートの支援・雇用）を実現させることを目標としています。



### 3 事業実績

#### (1) 企業への説明会

2010年10月から、経済同友会（中部、関西を含む）メンバー等の企業を対象に、説明会を開催している。

#### (2) 就職決定選手

2014年4月現在で、企業20社に26名（夏季競技12名、冬季競技14名）が就職を決定している。

